

中学校部活動の社会体育移行 検討委員会② 議事録

日時：令和6年12月23日(月)15:30～17:00 「ヴィーブル」研修室

出席者は別紙の通り

15:30～

(緒方主査)

令和6年度中学校部活動の地域移行第二回検討委員会を始めます。

(牧野課長)

年末お忙しい中にご出席をいただきまして、大変ありがとうございます。今日は一段と冷えますね。寒いですが、暖房つけてもちよっとここは窓際で寒いんですけども、特に中学生は、年明けすぐもう受験ということで、進路相談や入試等でお気を使われることが増えてくるんじゃないかなというふうに思います。どうぞ先生も含めて皆様には、体調をくれぐれも注意をしていただければというふうに思います。

さて、今日は、第2回の検討委員会ということで。関係者へアンケートを行っております。今日はその結果報告があると思いますが、その結果をもとに、合志市にあった部活動移行内容にということで検討していきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いをします。いずれにしても、中学生が、今後も気持ちよく部活動を続けていくためにというところで考えておりますので、今日はご検討のほど、よろしくお願いをします。簡単ですけども挨拶としたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(緒方主査)

資料確認

議長選出・・・前回に引き続き高本先生

(高本議長)

合志市社会体育移行基本方針についてお願いいたします。

(緒方主査)

昨年度準備委員会の中で提案しておりました基本方針でございます。再度確認をしたいと思ひますし、若干昨年度とは変わっている部分がございますので、確認していきたいと思ひます。読み上げます。

【基本方針読み上げ】

「③指導者の配置については担当と副担当などの役割分担を持った指導体制を構築する。総合型地域スポーツクラブが連携して推進していくために、事務局をクラブこうしに置く」この点が昨年と変更しております。総合型地域スポーツクラブに関しましては、

皆様もご存知の通り国が推奨する団体でございます。合志市の総合計画の中でも、総合型地域スポーツクラブ等の育成支援を謳っております。小学校部活動の社会体育移行時にも大きな受け皿となっていたことから、今回合志市総合型地域スポーツクラブ「クラブこうし」と連携して推進していこうと思っております。そのために事務局を「クラブこうし」に置きたいと思っております。この点が変更でございます。

(高本議長)

以上、基本方針について説明がございました。なにかご質問、ご意見とありますか？続けていいですか？じゃあ一応続けていただいて、後でまたまとめてお願いします。

(緒方主査)

【アンケート結果説明】

これらのアンケート結果をもとに、教員の7割は指導を希望しないとありますが、継続して部活動を続けたいとおっしゃる方や条件が合えば指導できるといった先生がいること。

子供達は部活動で先生に指導してもらいたいという気持ちがある。保護者は先生方の大変さをとても理解されている。ただ親として保護者が求めるものは子供たちが心も体も健康に友達をたくさんつくって充実した学校生活を送ってほしいということであるという考察をしました。

(高本議長)

以上の、アンケート結果、それから基本方針についてご質問とかご意見とかございますか

(西合志東小 有内校長先生)

基本方針の3番ですね。基本方針の中に書いてあったんですが、サポーターバンク等の人材バンクをと書いてあるところです。実際のところ、その人材バンクが人数的に、メドが立っているのか、これから集めるのか、その当たりの状況などを教えてください。

(緒方主査)

熊本県の方で、募集しております。160件ぐらい今集まっております。合志市としましては、人材バンクの開始はしておりませんので、県の人材バンクサポーター等と連携しながら合志市にも来られるような人材を見つけていきたいし、合志市独自でも人材バンクを作り上げていきたいと思っております。今のところ合志市自身の人材バンクはまだありません。

(合志楓の森中 高田校長先生)

アンケートをこれだけの数とっていただきありがたいなと思っています。このアンケートをどのように発表していくのかとか、開示していくのか。今どういう状況なのか・・・今の5年生6年生の親御さんもそれによってクラブに行くのか部活に行くのか迷われている方もいらっしゃると思いますので、市としてどんな風に移行されるのかお聞きしたいと思います。

(緒方主査)

この件につきましては、この後詳しく説明して参りたいと思います。またホームページ当たりでも検討委員会の内容を公開していきたいと思います。アンケート結果につきましては、もうこれは別に隠す必要はございませんので、保護者の皆様に開示されてもかまいません。

(緒方主査)

続きまして、部活動の新しいパターンとして基本方針の中でも説明しましたように、合志市と「クラブこうし」が連携して進めていくために事務局を「クラブこうし」において、推進していきますので、これから先の説明に関しましては、「クラブこうし」の方からしていきます。

(クラブこうし 村田)

合志市総合型地域スポーツクラブクラブこうしのクラブマネージャーの村田と申します。

クラブこうしでは常日頃から地域の為に子供たちの為に活動しております。今回中学校の社会体育移行において少しでもお力になればと考えております。よろしくお願いいたします。

中学校の社会体育移行は大変難しい問題です…何度も何度も協議をしています。そこで・・・まず最終的に目指したい形は何なのだろう？と考えております。理想の形に持っていくまでに数年かかるかもしれません。議論を重ねていくうちにもっといい形が出てくるのではないかと考えております。合志市中学校のスポーツ・文化活動の在り方を検討をしてみました。パターンとしては4パターンかなと考えております。別表にまとめてありますのであわせてご覧ください。

まずパターン1になります。これはもう完全部活動の継続という形です。形態としては今の部活動をそのまま残す形となります。この場合は先生方の負担は削減にはならないです。

ただ、現在との変更点においては先生方に謝金を発生させようというところです。先日

ですね、地域移行について、熊本市のことが書かれていました。それを参考に試算したんですが、顧問の先生が 1600 円、副顧問の先生が 1000 円、外部指導者を 1000 円の時給として、週 5 回 2 時間で計算した場合において、8759 万 5200 円という謝金の金額が出てきました。1 年間です。じゃあ、この金額は誰が負担するのか？先生の負担は全然減らないじゃないかと。ここはもうすごく課題の大きいところになってきます。ただ、子供たちにとってみればそのまま先生のもとで指導されてありがたい環境っていう形になります。これがパターン 1 です。

次パターン 2。部活動を縮小して継続すると、今行われている部活動を平日の週 2 回程度の開催に縮小します。もっと運動したいとか、もっと練習したい。大会に出たいとかいう子は民間のクラブチームや、うちの総合型地域スポーツクラブなどを自分で探して参加してもらう形になります。

この場合の先生の負担はかなり週 2 回になりますので、削減はされますが全くなくなるわけではないです。でも子供たちにしてみるとちょっと運動もできるし、勉強する時間も増えるなというところで、ちょっといいのかなというところもあります。

でも、やっぱり保護者としてはクラブチームを探さなくちゃいけないとか、別に負担が増えてくることになります。部活動の顧問の先生と副顧問の先生を週 2 回、2 時間で謝金を支払った場合において、この場合は平日週 2 回ですので、外部指導者は外しています。

そこで二人分ずつ払った時に 3328 万 6176 円約 3300 万円かかることになります。このお金の負担先なのですが、今まで週 5 で部活をしていたのを週 2 回のサークル的な形に変わった状態で保護者からは、それを値上げっていう時に保護者がうんというかなという課題もあります。やっぱりここはここの負担は誰が見るのかというところが問題として出てきます。これがパターン 2 になります。

続きましてパターン 3 です。これが完全廃止になります。ここは 3 年ぐらい前に、小学校運動部活動の社会体育移行の時にやった方法になります。もう完全に運動部活動を廃止して、そのまま運動を続けたい指導者の方や、保護者の方たち、そのチームを残したいって言われる方がそのまま「クラブこうし」の一教室として所属するという形になります。この場合、施設予約に関しては「クラブこうし」の方でします。施設費もこちらで負担します。だから、定期的に教室が開催するっていうのが可能になってきます。ただですね。参加する生徒さん、部員の方に一人一人に年間登録料が 6,000 円保険代込みで発生するという形になります。この年間登録料と月謝をそこで払っていただくのですが、その月謝の中で謝金や、その教室で必要な備品、消耗品などを買ってもらうことになっています。「クラブこうし」が他種目で活動していますので、部活だけじゃなく何か運動したい子も、自分でも個人で参加するっていうこともできます。この場合は部活動がもう完全廃止になります。なので、先生方の負担はゼロになります。ただ、学校生

活の延長で活動していた同じ中学校の仲間とのつながりや、先生とのコミュニケーション等が子どもたちの成長の糧になっていると思います。これらの部活動で得られていたものが、その後部活動を廃止してしまっただうなるのかなというのがちょっと心配ですし、部活動っていうのはやっぱり中学校で学校そのまま活動できて、部費も安いし、そして信頼できる先生が指導してくださるので、手軽さと信用を兼ね備えているものなので、これがなくなってしまうと運動しないという選択肢の保護者が増えてくるのではないかと・・・そうなってくると、やっぱり子供たちの運動離れてっていうのは心配されるのではないかと考えております。

次がパターン 4 になります。パターン 4 はちょっと絞り出して、絞り出していろいろ考えてみました。ここが学校と市、地域が手を取り、協力して未来を担う子供たちのためにというプロジェクトです。学校・市・地域、それぞれが連携して協力し、理解を示すことが必須となります。なので、基本的にも連携して部活動を継続させようという案になります。

これは今の学校の部活動をベースに考えております。子どもたちが今までと同じように活動できることと、先生方の負担をできるだけ減らすこと、ここのバランスを取ることを考えながら進めていきたいと思っております。1つの団体になるのですが、学校と町の部活動の運営は教育委員会になります。そして先生の移動などを踏まえて、持続的に管理運営をするために事務局を置きます。ここの事務局の部分を「クラブこうし」で担います。

そして、この合志市の四中学校の部活動を部員数、指導者などを考慮の上、精査していき開催場所を決定していきます。理想としては今ある部活動、そのまま残して子どもたちが何も考えず、そのまま参加できるというのが理想的になっています。この開催方法というのがもう様々になっていまして、平日2回のみサークル的な部活もあれば、週5回中体連とか大会を目指して頑張るという部活もありで、この4つの中学校で合同して合わせて一つの合同部活動を作るのもあり、という具合にもういろんなパターンを存在させていきたいなと思っております。そして、先生たちの関わり方っていうのも、もうそれぞれいろいろになるのですが。平日のみ、平日に2日だけでも指導したいなっていう先生もいれば、アシスタント的な立場で子供たちを見守っていきたくて言われる先生もあります。事務局とかいうのが入ってくるので、「クラブこうし」との連絡をきちんとやるって言うてくださる先生も OK。いろんなパターン先生のご都合や、方法とかを組み合わせ、いろんな形もいろいろ先生のやり方もいろいろっていう形を持っていたらなと考えております。

これがパターン4になります。

以上、4パターンです。

(緒方主査)

市としましてはパターン4の「学校と街の部活動」を推進していきたいと考えております。子供たちが今までと同じように活動できること。それと先生方の負担をできるだけ減らす。のそのバランスを考えた形としておりますので。このパターン4を進めてまいりたいと思います。

ここまでのことでご意見、ご意見がご質問とかありましたらよろしくお願いします。

(西合志中 高宮先生)

先生の関わり方も様々な形態で書いてありますけども、例えば指導する職員が外部指導者のサブをしたいということで、希望したとしてもそこのチームにメインで指導してくださる外部指導者がいなければ、そういうふうにはいかないわけですね・・・

(クラブこうし村田)

基本事務局を打ち出せることによって、その指導者を探しておいて、サブで先生入ってもらっていいですか？という形を進めていけたらなと・・・だからこそ、事務局を置いて全体像を見て調整する。こっちの先生はじゃあ出てくださると言ったので、こっちに行ってもらえませんか？とか言えるような形を合志市の4中学校で全部活動を見るようなイメージ。

(西合志中 高宮先生)

西合志中に所属していたとしても、合志中のサブになったりすることもあるし・・・

(クラブこうし村田)

もし先生がOKと言ってくださればというところなんですけど。だから基本無理強いはない。先生たちができる範囲内で子供たちと関わっていただきたいという思いで、考案しました。

(牧野課長)

ただ、学校の先生には顧問というか事務的なことをしていただく先生はちょっとつけてほしいなっていうのは思うんです。でないと完全に外部になると連絡だったり、いろんな情報が入ってきて、伝達があったりとか、学校でのそのやり取り、情報とかそういった部分の連携がちょっと取りにくいのかなと思ったりするので・・・そこら辺のご意見もいただきたいなと思います。この案にしたのはなぜかという、一つは会場と言いますか、練習する場所

が、やはりその学校を外した市の社会体育施設ではどうしてももう手に負えないというか足らない状況ですので、学校の施設は使わせてほしいというのが大前提でこの案をしています。部活動移行で全国的に見ると少子化で子どもたちが減っているの、学校同

士合わせてやっていますけど、まだ合志市は子供たちは増えている状況ではあるので、単独学校で、部活動をやっても問題はない。ただ現状西中ではサッカー部の子が3人くらいしかいなかったと思うのですが、西南中に行かれているのかな？そういう情報をもっているんですけど・・・

(西合志中 高宮先生)

去年は西南です。今年は大津北です。

(牧野課長)

大津北・・・そういうのも現象として出てきているのですね。

大津北に通いで？親御さん？

(西合志中 田崎校長先生)

試合の時に、です。

(牧野課長)

なるほどですね。実際に他校は合同でしているっていうような状態もあるので、こういう案もありなのかなと。現在でも外部コーチが入ってメインで教えられている部活も多々あります。ですので、そういう形態も残しつつみたいな感じで、外部コーチもどんどん入れていきたいというところで考えているところです。

(合志中 林先生)

意見でもいいですか。私としては一番の部活動の継続に踏み切るのが合志市以外でも、熊本市の例じゃないですけど、やってくしかないのかなと、個人的には思っています。やはりそこで教員がやる、もしくは外部指導がやるっていうのを色々考えた時には移動が絡むととても難しいので。よく経済的な負担があつていうのもあるのですが。僕は月5000円ぐらいの謝金を取っていいのかなって個人的には思います。習い事であれば月1万円くらい払われます。必要であれば払うと思います。だから、やっぱりそれだけ必要な経費であるって言うことを伝えたら賛同するところはするし、しないところはやらない。あくまで任意団体ですので、謝金に関してもやはり学童じゃないんですけど、技術料としてじゃなくて、この時間を拘束する料金の適正額がこれですと、実際月5000円払ったとしてもクラブチームに比べたらはるかに安いと思うのです。じゃあ月5000円払ってこれぐらいの技術料だって思われるところは、やはり月1万2万払って、高いお金払ってクラブチームに行く。そこまでは払いたくないけど、先ほどあったように、学校の施設でできる放課後できる。それにはやはり見守りも人材がいる額なのかなと思います。やはりこうしたら意見も聞くと、個人的にはそのお金云々じゃないのですが、

やっぱり1の形しか当面難しいんじゃないかなっていうのは自分の意見として感じています。以上です。

(渡辺課長補佐)

今の意見に関してなんですけど、そのお金の面は確かにおっしゃる部分もその通りかなと思うのですが、その先生たちの負担の部分はどのように考えられますか。

(合志中 林先生)

私も多分いろんな職員とお話するのですが、教員は正直です。お金が欲しいわけではないと思っています。ただ、全てボランティアみたいな形でして、そこに対してこれ、その状況に対してこのクレームが来るのかとか、そういうところからも負担も感じられている方ももちろんいるのかなとおもいます。

やっぱりこうゼロか。これが別に時給500円なら500円でもいいと思うのですが、0円でやれと言われているのか、やはりきちっと身分とその賃金とを分けて、その時間を使っているのかっていうものかなと思います。

やっぱり希望しない人は希望しなければいいと個人的には思う。

(渡辺課長補佐)

基本的に私どもで考えたのがその前段で話しました。そのアンケートの結果をもとにこういう4パターン組み立てて、特に最後の「学校と街の部活動」っていうのが、いろいろなご意見に対応できるかなというところで、それをしていこうという話をこちらではしていました。当然1の部活動の継続というの、選択肢の一つとして入れているぐらいですので、その検討ももちろんしていかないといけないかなというところなんです。けれども、アンケートの結果を見ると、単純に7割の先生たちが負担に感じているという結果が出ていますので、今のご意見を聞くと、例えばその7割の先生たちの本音というか、実際としては適正な対価というのがあるのであれば、継続してもいいと変わるところもあるところなんです。そこはどうか？

(合志中 林先生)

個人がそう思っているだけで、7割は減るのではないか、という気はしています。

(合志楓の森中 高田校長先生)

本校は、対価を払われてもしたくないという先生もいらっしゃいます。子供が小さいとか介護しなければお金もらった時も誰かがやっぱ見ないといけないから、やっぱりそのお金をもらっても介護とかできるかって言ったらやっぱりできません。変わりは代用できないので。塾もそうですけど、必要かどうかは保護者同士でやっぱり塾は必要だという方もいらっしゃるだろうし、お金が掛かるのなら部活動は必要ないという保護者もい

らっしゃるだろうし、そこはもう少し本音を聞かないと。本校の職員は子供が小さい・・・お金を払ってもらっても・・・今の時間って二度とないからですね。

(高本議長)

小学校の例でいくとクラブチームに移った瞬間に学校の先生方は指導しているでしょうか？ほとんどいない。お金の問題じゃない。やっぱり仕事もあるし家庭もあるし。それを犠牲にして子どもたちのためだからっていうことでしていたのに。いくら払いますよって、じゃあします。なんて言う人はいないと思う。どうしてもしょうがないからするって子供たちの成長がとてもうれしいから、せざるをえない。やめられるっていうのが本音ですね。だから対価が伴うわけじゃないのですが、ちょっと厳しいかなと・・・

(合志楓の森中 高田校長先生)

本校の職員も様々でやっぱりその部活をしたいという人も当然いるんですけど、学校の教員の、スケジュールを考えた時に夕方と言うとだいたい4時40分が基本終了で、そこから部活動が始まります。今だと6時に終わる。そこまできっちり就いて、そこから帰ってきて教材研究する。夏場になって7時ぐらいに戻ってきて教材研究する。そういう日々が毎日続くのです。土日もある試合があるとできる方はできると思うんですが、やっぱりその家庭に小さい子がいる、介護などがある、自分の地域での役割っていうのも当然あったりするので、やっぱり現状、教員は子供を見るのが仕事なので、子供の成長のとても喜ばしい、今まではそれでやってくれたと思うのですが、もうこの前報道でもあったように全国で7000人以上の職員が、休職をしている。もちろん部活動だけが原因ではないと思うのですが、形は考えていく必要があるのかなというふうに思いますし、今県の部活動の指針では、週平日1回休み、土日1日休みという風にはなっていると思うのですが、その辺もやっぱりこう軽減していく。そんな方向性でないと厳しいかなと個人的には思います。

(牧野課長)

なので、最後のパターン4のイメージ的には今の部活動継続というか、形的には残していったって、プラス先生たちの指導を外部にスイッチしていくというようなイメージを持ってもらうといいのかなという風に思います。

(合志中 林先生)

私もちょっと中体連にも関わっているのですが、その理想は分かっているのですが、結局指導できる人間がないというこの現状をどうするのかなというところだと思います。結局バスって切ればもう楽とは思いますが。これがこういう形になりましたから、やはり先ほど子どもたちがいるからとか色々あっても結局人材バンク、県でもほとんど人

がない。実際結局いないからっていうので、結局ずっと教員が引っ張って、これが5年なのか6年なのか、先ほど高宮先生からありましたけど、今きついけど、5年後6年後は楽になるという状況もあると思うのです。子育てなのでもちろん。

理想はこの形だとしても、最初は教員主体で、もう今みたいにやっていくしか人が正直いないと思います。合志中だけでも普通に考えて、その4時ぐらいにとか、夏休みの午前中に練習に来られる指導者が誰かいるのかって言われたら・・・それ教員が見るってなればやはり先ほどじゃないですけど、代わりに教員が見るので、地域の人としての謝金っていうか、最低限の線引きのためのっていうのは必要な、いけば全く問題ない話ですけど、これが増えるっていう、その方策がまた中体連も含めて見えないのです。平日も含めて。そこも議論しないといけないのかなと。個人的には・・・

(牧野課長)

その通りで、このパターン4をスタートしようとしても、指導者がって言われたら本当できないです。なので、基本は今のスタイルをそのまま、人材バンクとかそういった人をできるだけ募集をかけて揃い次第少しずつスイッチしていくっていう考え方で・・・パターン4にいきなりなるということはないです。そういうふうに思っていた方がいいと思います。ただ、少しぐらいというか金額がまだこれからなのですが、報酬とかがそういったのは決まり事を作っていて、報酬とかを払っていきますよ、という感じです。なので、今のスタイルを180度変えるわけではないです。今のスタイルを継続しつつ、少しずつ変えていくということです。

(渡辺課長補佐)

あくまで今回説明したパターン4というのが、今回がその最終的なゴール、これを目指していきたいというところの方向性の説明ということでさせていただきました。なので、理想、おっしゃるようにこの形が一番理想であるのですけれども、全くこの通りになるかどうかという、まだわからない部分は確かにあります。ただ、理想として、いろんな形が共存するという形ができれば一番いいのではないかとこのところで、この方向性でこれから進めていきたいことで、また今後実証事業、後で説明がありますけれども・・・実証事業を使って実際少しずつ一つの部活動を例にしてモデル事業を一つずつこれから実際にやっていきながら検証していきたいと思います。中身を具体的に詰めていきたいというふうに考えております。確かに指導者不足はそうだと思います。ただ、最初の基本方針で説明をしました通り、その人材バンク、合志市版というのも、これから検討していく、作り上げていく必要があるかな。いろいろな形の働き方っていうか対応ができるという先生方とか、地域の方とかそういった方たちをこれから、探していってお声かけをして、合志市版の人材バンクを作り上げていくと、それも合わせて、進めていく必要があるかなと思っております。

(クラブこうし村田)

アンケートを今回取らせていただいて、7割近くの先生方が協力できないと書いていたのですが、直接会ってお話すると、あとここはちょっと気になっていたからパツて書いちゃったんだよね。と言われる先生もおそらくいらっしゃると思うので、多分7割がないってということはないと・・私は信じたいので、ここもベースは先生です。で、外部指導者を探してきたり、本当にどこかでちゃんとメインで教えたいという先生も探してきたりとか、基本は先生たち。でもだからといって、先生に無理強いをしようっていうあれではないです。だから本当に来年1年間かけて、先生のところに足を運んで部活のどこ行って話して、それで考えていきたいなというふうに思っているのもうし、しっかりやりたいという先生方も今までいっぱい見てきましたし、嫌だよねと言われる先生も見てきました。だからそこを一緒にこう対話して、じゃあ先生ここだけだったらお願いできますか？とかいうのをいっぱい話して形を作れたらいいなと考えていますので、ご協力いただけたらありがたいです

(合志中 中村校長先生)

パターン3についてについて少し・・パターン3は完全廃止。私どもは中学校ですので、小学校の先生方などの部活後に携わってきた様子っていうのが中学校に上がると把握しないところがあって、これ完全移行して、先生方が先ほどもありましたように、もう指導者に残られている方も少ないということでしたけども、中学校に勤めている職員からすると小学校ができたことがなぜ中学校はできないのかっていう疑問がまずあるとおもうんです。今実際、小学校のクラブ数とかが中学校と比べて、数が少ないからとか、あるいはそれに対する「クラブこうし」を含めたスポーツクラブの指導対策が整っているから、とかそのことがなぜ中学校では難しいのかっていう説明は、中学校の先生方に特に必要な部分でもあるのです。尋ねられてどう皆さんお答えしているのかな、というのも確認したい。もう1つは、じゃあ部活動で培われてきたものがある。小学校でなくなったことで得られていたものが実際どうもないということで、それがコミュニケーションとか色々運営上難しくなったとかいう事例があるので一概に、それが中学校になくなった場合は、先ほど得られたものがなくなることもデメリット・・実際小学校どうなのかということも確認しておく必要があるのかなと。

(緒方主査)

小学校のことは私も小学校おりましたので、中学校もおりましたので説明させていただきます。小学校の場合は平成30年をもって部活動はやめると大ナタをふるわれました。発表があつたのは28年ぐらいですかね・・もういきなりやめとなったので、それから受け皿を探し、ほとんどが総合型地域スポーツクラブぐらいだったのでそちらに願

いして、子どもたちを受け皿として移行したりしました。で、なぜ小学校でできたものが中学校でできないかというのは、いろいろ分析はこれからしていかなくちやいけませんけども一つは中体連という大きな大会があります。その大会に向かって、子供たちがとても熱心に練習しております。指導者もその大会を目指して指導しておりますので、その中体連の大会とか、全中とか・・・今日の新聞によりますと、全中大会が国民スポーツ大会と一緒になるっていうような記事もありましたけど、全中大会までを目指して頑張っているというところで、なかなか中学校の部活動が小学校みたいに切り離すことができないという指摘がございます。

(西合志中 田崎校長先生)

パターン4について質問ですけども。中学の先生たち私なんかはもう部活に全中目指してやっていたので、全然負担には感じたことはないのですが、家庭をですね、かなり犠牲にしてきたというのは今になってとても反省しています。なかなか子供とのですね。溝がそこで埋まらない部分も多少あったと思うのですが、うちの妻にはかなり負担をかけたなということ、今になって分かりました。ただ、その時はもう部活は楽しみでやっていたので、負担に感じたことはなかったのですが、今の先生たちを見ていてですね・・・おそらくもう学校から中学校部活動が地域に移行するっていう感覚で、教員になられている先生もいらっしゃる。そうした時に、このパターン4への移行で、ここをやっぱ先生方に説明するような場が、行政からもご説明していただくような場が必要じゃないかって思います。と、もう一つはですね。先生方パターン4のことですけど、例えば学校としての困り感が今後出てくるとするならば、やはり指導者不足なので、今も本校の先生方、西合志中学校ですけど、本校の先生方が指導している部活動と外部から指導していただいている部活動と様々です。教職員って異動がある関係で、じゃあ来年どうなのか、これも毎年部活動担当になられた先生方と校長先生、教頭先生方もかなり毎年苦労されることだと思うので、例えば指導者が見つからないっていう学校に対して、行政から支援をしていただけるのか、その辺が学校としてとても心配なことじゃないのかなって私自身思います。積極的に市の方に今この部活の指導者がいないので、誰か適切な指導者がいらっしゃいますかととか、それ積極的に市の方に問い合わせるよらしいんですか？

(クラブこうし村田)

していただきたい。だから、事務局を置いて管理しようとなりました。

(牧野課長)

そうですね。将来的にはそういうことができるようにしたいですね。今については、まだ人材バンクもできていませんので、将来的にはそういった情報の連携を取りながら

充実して、ここの部活の指導者がいないだとか、少ないだとか、そういった部分で市の方で持っている情報で指導者を当てるといようなことを将来的にはやりたいと思っています。だから、このパターン4を提案しています。

(西合志中 田崎校長先生)

次年度はどうですか？

(牧野課長)

新しい年度に関しては間に合わないでしょうね。現状、直近で行くと現在の部活動を継続です。ただ、将来的にパターン4に向かっていきたいというところです。

(クラブこうし村田)

うちが小学校の時に全部を入れてっていうところで、学校の学校運営とはもう切り離れた部活動になりました。中学校もそれでいいじゃないって話もしたのですが、小学校の時そうなったことによって、学校施設音楽室とかが一切使えなくなったので、音楽部吹奏楽部そういうのが全部なくなってしまったのも現実です。中学校になると吹奏楽部がすごく盛んにどこの学校もあります、活動場所を確保するためには、やはり先生方との連携を絶対取らせていただきたい。その音楽室を使いたいというところもあるので、完全に「クラブこうし」にただ入れるっていうのはやめようという話から先生たちとの連携をとってやっていこうという発想になっています。吹奏楽部の問題はすごく大きな問題になるので、普通の体育館でできるとかいうわけでもない、そこはちょっと置いといてっていう話にはならないのかなど。なので、やっぱり最初のスタート時点でこういう感じで、先生方と連携を取ってやっていこうという感じで進めていかないと多分いっきに進んでいった後で、「あら吹奏楽部どうするの？学校使えないって話になっているよ」っていう形になってしまうのではないかという心配があるので、こういう形に持っていきたいと思っています。なので、今回は小学校の時とは違う形で進めていこうという話になりました。

(高本議長)

小学校のですね。部活動からのクラブチーム移行についての会議で、私はそっち側に座っていたんですね。そして、教育委員会からは子どもたちの受け皿を作ってくださいって教育委員会も支援しますから、サポートしますからということでクラブチームを作りました。できるだけ部活と変わらない、近いような形ですね。そしたらそれでスタートしたいですけど、教育委員会のメンバーも変わる。校長先生たちも変わるうちにもう2年ぐらい経ったら、「今使っている部屋を開けてくれ」「荷物どうするのですか？」「横にプレハブを立てるからそこに入れてくれ。体育館の部屋は一切使わないでくれ。」っ

て「いやそんな話、僕たちは知らない」教育委員会もメンバーかわっているの、「なにそれ？」となったけど現状維持ということになった。やがて、校長先生たちも・・・聞かれている校長先生はいいのですが、おられるといいのですが。何年かすると変わっていくから、話はどうだったのって結局あやふやになっていくから、こういうのはきちんと残しておかなくてはいけない。

(牧野課長)

だから大きなルールとして学校施設は使うというところでスタートしたいなというふうに思います。

(高本議長)

小学校にできてと言われましたが、小学校できていません。郡市で何チームもあったチームが合志市は子供が多いからまだ残っている方です。菊池市なんかも全部なくなりました。指導者もない。子供もないところはどんどんなくなる一方です。親も塾にもやるけど習い事もやる。又は塾にもやれないし習い事にもやれない。放課後なにかするしかないという状態がいっぱいに見られます。

(西合志東小 有内校長先生)

今小学校の話もちょうと出ていますけど、私平成元年から教員になりましたので、もう部活動全盛期にサッカーをやりました。合志市のことでちょっと例を挙げると、私は南ヶ丘小学校に勤務してた時がありまして、あそこの野球部を、担当してて本当にすごく練習していました。大会前1週間でないところの練習は週2日なのですが、大会の1週間前だったら3日4日してもいいというルールもありました。ところが年間ずーっと大会前だったので永遠と練習しました、土日です。小学校が完全に社会体育に移行しますよっていう風に連絡が来てからどうなったかという必死に探しました。次に、それを受け持ってくれる人を探しました。いろんな方にあたって特にやっぱり地域の方です。地域に住んでおられる方で、例えば野球部であれば野球が指導できる方、自分の子供が前にそのチームにいましたとかですね。そういう方であればなおいちいところがあって、そういう人を一生懸命探しました。

おそらくあの当時のサッカー部は多分なんか違う団体にお願いをされました。バスケットの方もどなたかを探されてということで2年後3年後にもう完全移行するくらいということで一生懸命探しました。その部活に関係している人たちが探していきました。当然、合志市の方でも探してもらいましたが、なかなか集まらないですね。そんなにあの指導ができる方をこの人いつも来てくれるとかですね。4時ぐらいに来てくれるとかいない。やっぱりどんなに早く来ても5時です。そうしていく中で小学校は完全に移行されて、社会体育の方に移っては行ったのですが・・・良かった面と悪かった面とやっ

ぱりちょっとあるのですが、今はもうどうか分かりませんが・・・よかったのは当然先生たちが放課後の時間ができるようになった。もう部活動に4時半ぐらいから行って、それから2時間ぐらいは練習するので、そこから上がってきて、次の日の教材研究ということになります。どうしても、部活動やっている人は毎日帰るのも遅いし、土日もないというところもありました。当然試合だけじゃなくて監督会議とかもですね、行かなければならないので、当然そこに行く時間とか出てきます。それでも子供たちといろんなたくさんいい思い出を、頑張って勝ったり負けたりでとても嬉しい時間があったりとかもします。保護者から時には感謝されたとかいうこともあります。一方で、良かったのは先生がずっと子どもたちの様子、指導していると、そういう風に部活の時間、それから土日頑張ったことも知っているので、例えば月曜日に子供たちの中にはもうへこたれてきつくて学校をいかないとかですね、思わず休んでしまいそうな子たちがいます。だけど、あの日曜日の試合が終わる時に明日絶対来いよ。で、もう試合で頑張っても月曜日も頑張ってくるからすごいわってえらくほめられるんだよ。とかいう話もしながらですね。あの要するに部活動とそれから普段の日常の学校生活と両方を見られているからということで指導が一貫してくるのです。その良さはありました。当然負担は大きくなるのですけども一方で社会体育に移ってから、どうしても部活動をもうやってないので、子供たちの選手の姿を見ないですよ・・・土日の試合をやっている姿も応援に行けば見られますけど、見られないので月曜日なんかきつくなって授業中も寝ていたりとかする、そうするとそこに昨日多分頑張ったんだろうなと思うのですけども、そこでなかなかこう、すごく頑張れって言えない部分も出てきたりして、その一貫性がなくなるっていう部分もあります。それは子供たちの心構えで変わるのでしょうけども、そういう風に 良い面と悪い面とあったのですけども、その小学校でやっぱり部活動がなくなってからのことっていうのは、まずやっぱ第一に、最初に言ったのですけど、人材バンクですね。ここがないことにはもうできないので、指導できる方を探す。そういう人をがいうということが前提で、そこが見つかるまでは、もうそこにあるようにあのパターンの4ですかね。ということでやっていかないとおそらく持続可能な取り組みにならないと思います。どうしても無理していれば・・・なので、少しでも上手に移行しながら持続可能なこの部活動のあり方を、みんなでちょっとずつ、ちょっとずつやっぱ作っていくべきかと。当然そこには時間がかかりますので、なんかいついつまでに移行するよとかいうのをを出しておくことで、自主的に人を見つけようっていう動きも出てきますし、それからのいろんなやり方を、考えていい案が出てくるということもありますので、そういう風にちょっと少し時間も取りながらですね。進めていくといいかなと。私はとても部活動が大好きだったのでしたい方だったのですけども、さっき先生が言われたように、私も妻にたくさん迷惑だと思います。

今頭が上がりません。

(合志中 生村校長先生)

小体連の方はどうですか？

(有内先生)

小体連の会長もしていますけど…小学校の方はもうほんとあの部活動はですね。まあ、ほんと完全に移行というのがあったので、もう本当にそれぞれの地区でどうにか人を見つけてっていう移行をしています。ただ、熊本市なんかはまだ小学校でちょっと部活、実はやっていますもんね。だからその代わり多分昔ほどバリバリやっているという意味ではなくって、なんかシーズンのいろんな運動をやる。で、先生たちもおそらく1時間ぐらい見るとかです。それあまり無理ないような形で熊本市として、されているみたいです。ただ、いわゆる熊本市ではなくて熊本県と言われるところですね、こちらはもうほぼ完全に移行しています。なので、もう地域の方にお任せしている、あるいは各市町で運営されているという風に移行しています。

(合志中 中村校長先生)

大会とかそういう小体連がということはないということですね。

(西合志東小 有内校長先生)

以前やっていた小体連サッカー大会とかバスケット大会は、もうないです・・・事業そのものをやってないので。

(西南中 大山校長先生)

西南小に行った時にまさに運動部はもう移行していました。音楽部があって、やっぱり楽器があるのでどうしてもで、他の先生と一緒に、今話が出たのですが、ちょっとお話ししますが、一番小学校から部活動の手が離れたのは学校が絶対連れて行かないといけな大会がなくなったからです。まず運動部はなくなれたかなって。ただ音楽部とかなると道具があって、これちょうど僕は地域の方がしてやられていたのです。申し訳なかったですけど・・・前の校長先生からの引きつぎで来年なくす方向で、みたいな話で保護者に話をしているので、最後にその指導者の方ということで「僕が話すんだな」と思いながらちょっと心苦しいところがあったんですけど、結局学校で道具が使うということはその時間まで教頭とか誰かが残っとかないといけなっていうそこを知ってくるっていうことはありました。

なので、なかなか難しいとこかな・・・と。先生方と一緒に、妻には本当頭が上がらないぐらいやっていたので、今考えるとそれもちょっと申し訳ないなっていう気持ちで、うちの妻は別にいなくてもいいように諦められていましたけど、そういう状況だったのですが、一応僕は小学校に勤めて中学校にずっといて、小学校との違いが逆に見えたとい

うか・・・なんでなくなったのだろうなと思った時に、やっぱりその学校主体で参加する大会がなくなった。というのは、もう大きくなって、そして例えば部活動とあと外部指導者が一緒になった時、この調整が非常に二大巨頭性は部を潰すものという子供たちに影響はいくから・・・

というのはもう目に見えているので、移行する時ってというのはかなりのトラブルが考えられるかなというのは予想される。

(高本議長)

いずれにしても、もう来年からというのはちょっと無理ですね。

(牧野課長)

皆さんの意見を聞いた上で、来年からちょっとモデルをしたいな。モデル事業をします。

(緒方主査)

今後の検討課題としましては、今先生方から皆様からご指摘がありました、指導者確保の報償費、学校と地域の連携の方法、部活動の精選がありますけど、そこに書いております実証事業というもの、来年度から取り組んでいきたいと思っております。地域スポーツクラブ活動体制整備事業補助金を使った活動をしていこうと思っております。この補助金の中学校の地域移行のためにある補助金で、次のページをご覧ください。取り組みとしましては、体制整備とか指導者の質の保障量の確保、関係団体の分野との連携強化・面的・広域的な取り組み内容の充実、参加費用負担支援等の学校施設の活用等などがあります。

補助金の申請が昨年度から始まり、今年度山鹿市も補助金を使って実証事業をしております。山鹿市は生徒があまり多くありませんので、合同部活動をやっているということです。学校開催だったものを場所を変更して開催することによって、施設の使用料、備品代等を補助金で支払い実証事業を行っていくということでした。

次年度は合志市も補助金申請を予定しておりまして、実証事業を実施していこうと思っております。次の検討委員会で実証事業の細かいところの組み立てを皆様に提案したいと思しますので、実証事業についてのご意見を各学校に行ってお伺いするかもしれませんので、その時は相談させていただきたいと思っております。今後の予定でございます。では、7年度に実証事業を実施しまして、課題の洗い出し、または課題解決策の検討、施行、先進的に活動している、玉名市等に、訪問して活動の中身を見せていただく等のそういうことをしていきたいと思っております。令和8年度は活動の充実を図っていききたいと思っております。7年度の実証事業を基に8年度、一番小さな形で地域移行の取り組みを進めていきたいと思っております。

次回の検討委員会

令和7年2月10日の午後

また改めてご案内をしたいと思っております。以上でございます。